

- ◆ **今週のコメント** (感染地域、感染経路については推定を含みます。)
- 腸管出血性大腸菌感染症の報告が1例(10歳未満男性)ありました。本年の累積報告数は6例となっています。発生状況の週別推移や血清型別患者数などの詳しい情報については、下記URLを御参照ください。
○腸管出血性大腸菌感染症発生状況(衛生環境研究所ホームページ)
<http://www.city.kyoto.lg.jp/hokenfukushi/page/0000068305.html>
 - A型肝炎の報告が2例(40歳代及び70歳代女性各1例)あり、症状は全身倦怠感・食欲不振などです。感染地域は共に国内です。本年の累積報告数は6例となりました。
 - レジオネラ症(肺炎型)の報告が1例(60歳代男性)ありました。症状は発熱、肺炎で、感染地域は国内です。本年の累積報告数は9例となりました。
 - カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症の報告が2例(70歳代の男性及び女性各1例)(第24週及び第25週追加報告分)あり、本年の累積報告数は16例となりました。
 - 侵襲性肺炎球菌感染症の報告が1例(80歳代男性)あり、症状は発熱・咳・全身倦怠感などです。感染地域は国内、感染経路は不明です。本年の累積報告数は49例となりました。
 - 百日咳の報告が6例(10歳未満男性3例, 10歳未満女性1例及び10歳代女性2例)(第25週追加報告分3例含む)ありました。本年の累積報告数は18例となりました。
- ◆ **今週のトピックス: <手足口病>**
- 京都市における手足口病の定点当たり報告数は1.33(57例)となり、前週の0.56から倍増しました。詳細をトピックスに掲載しています。

◆ **発生状況**

全数把握の感染症

- 二類:結核 9例(肺結核 5例, その他結核 1例, 潜在性結核感染者 3例)うち喀痰塗抹陽性 4例
【1月以降の累積報告数 171例(肺結核 73例, その他結核 40例, 潜在性結核感染者 58例)うち喀痰塗抹陽性 40例】
- 三類:腸管出血性大腸菌感染症 1例【1月以降の累積報告数6例】
- 四類:A型肝炎 2例【1月以降の累積報告数 6例】
- 四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 9例】
- 五類:カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 2例【1月以降の累積報告数 16例】
- 五類:侵襲性肺炎球菌感染症 1例【1月以降の累積報告数 49例】
- 五類:百日咳 6例【1月以降の累積報告数 18例】

定点把握の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点69, 小児科定点43, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	0.03	2
小児科	① 感染性胃腸炎	6.70	288
(降順5位まで)	② A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.51	65
	③ 手足口病	1.33	57
	④ ヘルパンギーナ	0.79	34
	⑤ 突発性発しん	0.51	22
眼科	流行性角結膜炎	0.60	6

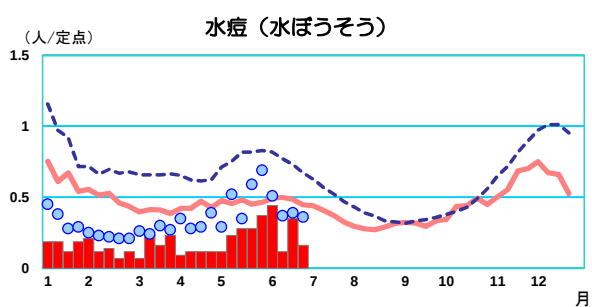
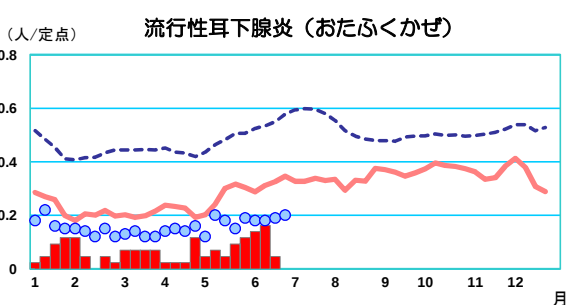
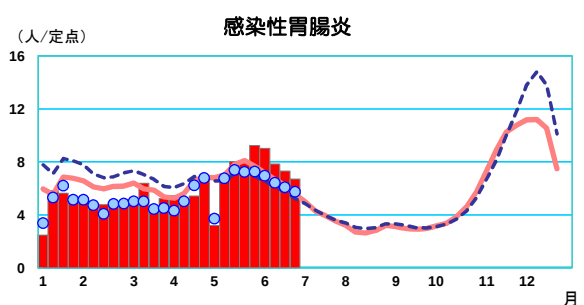
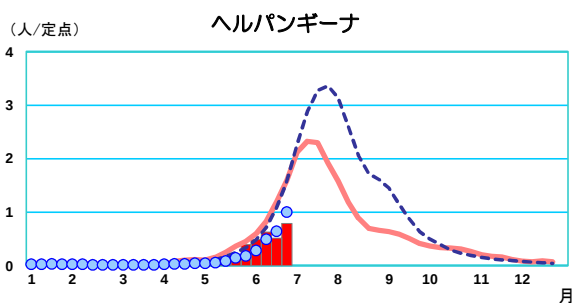
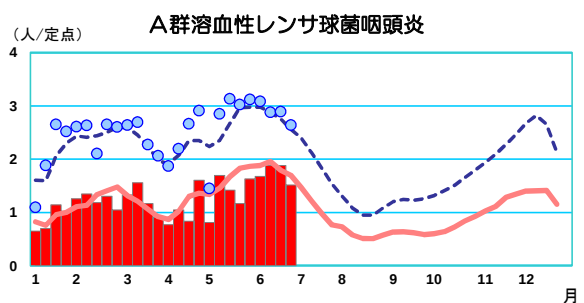
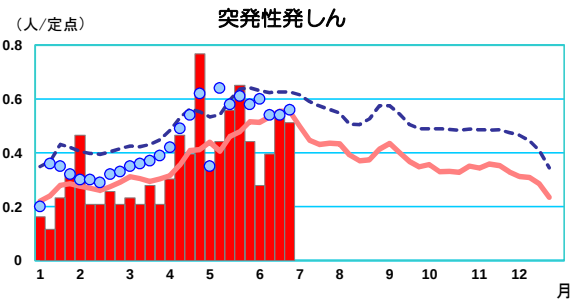
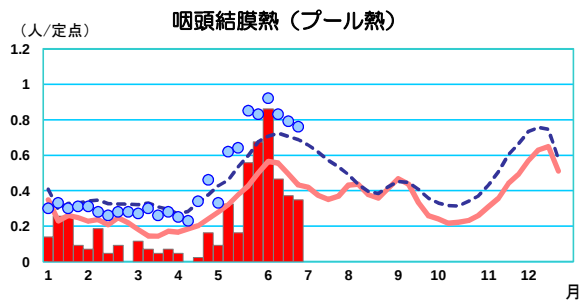
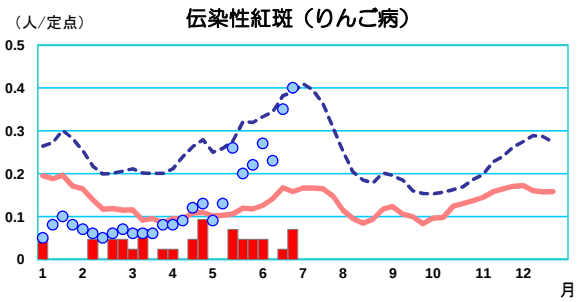
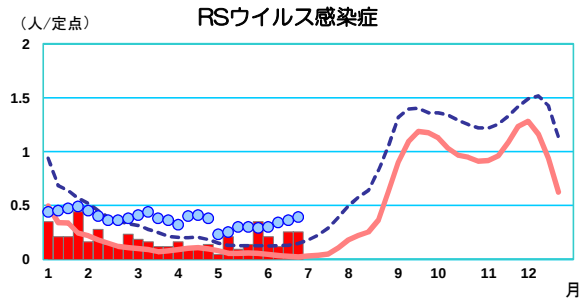
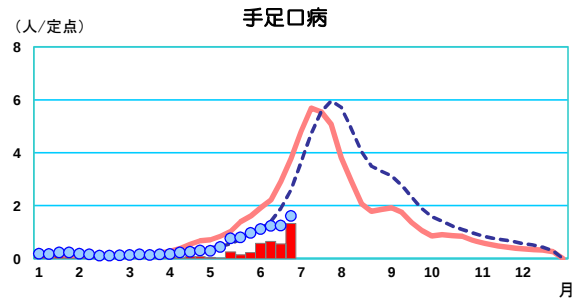
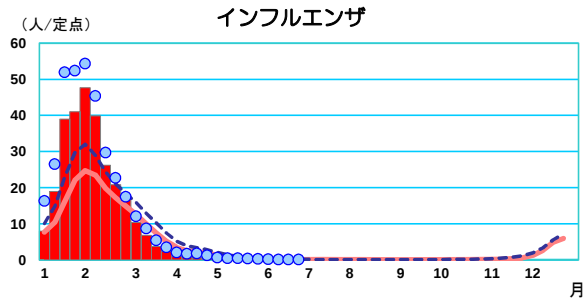
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <手足口病>

付表(疾病, 行政区別報告数 / 年齢階級, 疾病別報告数 / 週, 疾病別報告数)

(注) 京都市のデータは、平成30年7月4日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。
また、本情報での患者数は、届出医療機関所在地での集計で、患者の住所を示すものではありません。
※ 感染地域及び感染経路については推定を含みます。

インフルエンザ及び小児感染症の疾病別推移グラフ（平成30年）



第26週(6月25日～7月1日)トピックス: <手足口病>

《京都市及び全国の動向》

京都市における手足口病の定点当たり報告数は1.33(57例)となり、前週の0.56から倍増しました。全国でも1.60となり、前週の1.24から増加し、本市、全国ともに過去5年平均値は超えていないものの、第18週から徐々に増加を続けています(図1)。都道府県別の定点当たり報告数をみると大分県、宮崎県、鹿児島県では第20週から、熊本県では第22週から、福岡県では第23週から警報開始基準値である「5」を超え、九州地方ではすでに流行が始まっています。また今週新たに山口県が警報値を越え、西から報告数が増加している傾向が見られます。(図2)。

手足口病は乳幼児を中心に主に夏に流行し、主症状として口の中、手のひら、足底や足背などに2～3mmの水疱性発疹が出ますが、まれに髄膜炎、小脳失調症、脳炎などの中枢神経系症状が出る場合があります。原因となるウイルスは複数あり、何度も罹患する可能性があります。平成26年から平成30年第26週までの全国の手足口病患者由来のウイルス分離・検出割合をみると、年ごとにウイルスの検出割合が異なっています。本年は特に中枢神経系の合併症を引き起こす割合が高いエンテロウイルス71が80%以上を占めており(図3)、重症化に注意が必要です。

《予防》

手足口病に有効なワクチンや、予防できる薬はありません。感染経路は飛沫感染、接触感染、糞口感染です。患者の便の中にはウイルスが含まれます(2～4週間)ので、予防方法としては手洗いを流水と石けんで十分にすること、排泄物を適切に処理することが大切です。保育施設等では感染を広げないために、タオルの共用を避けましょう。

図1 京都市及び全国の定点当たり報告数の推移

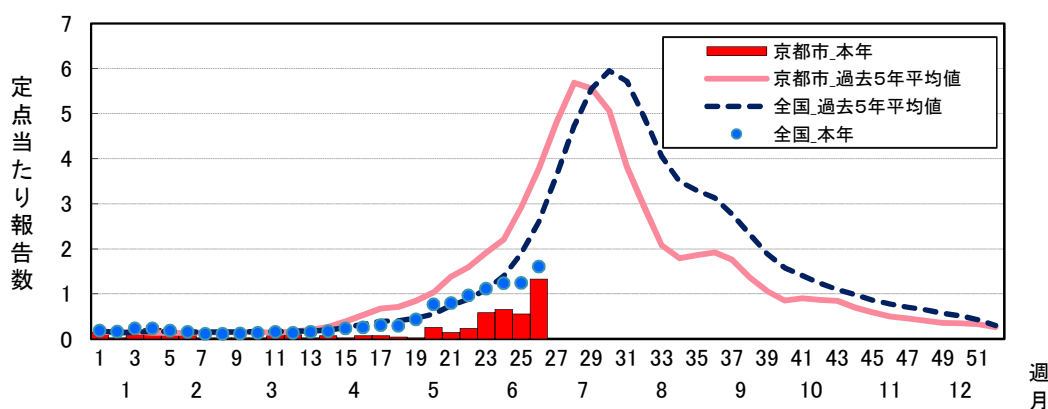


図2 都道府県別の定点あたり報告数の推移

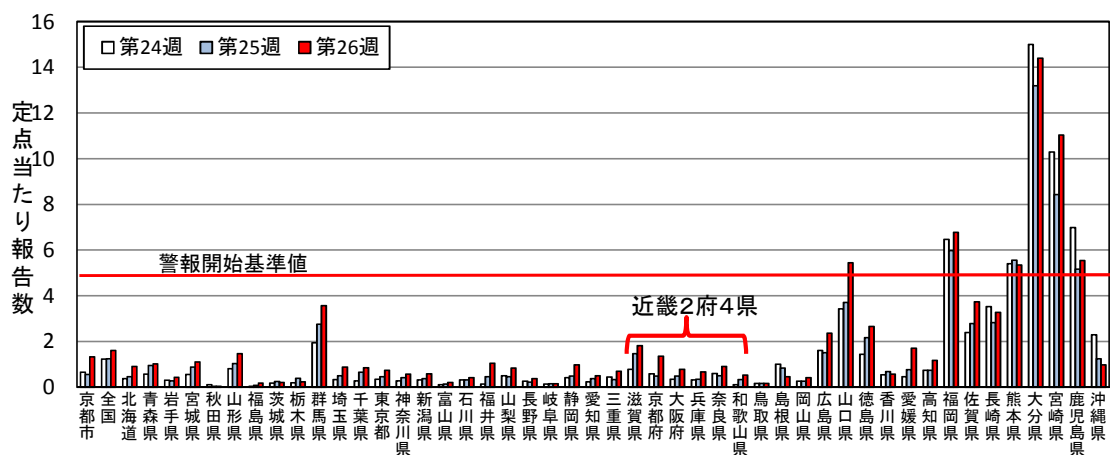
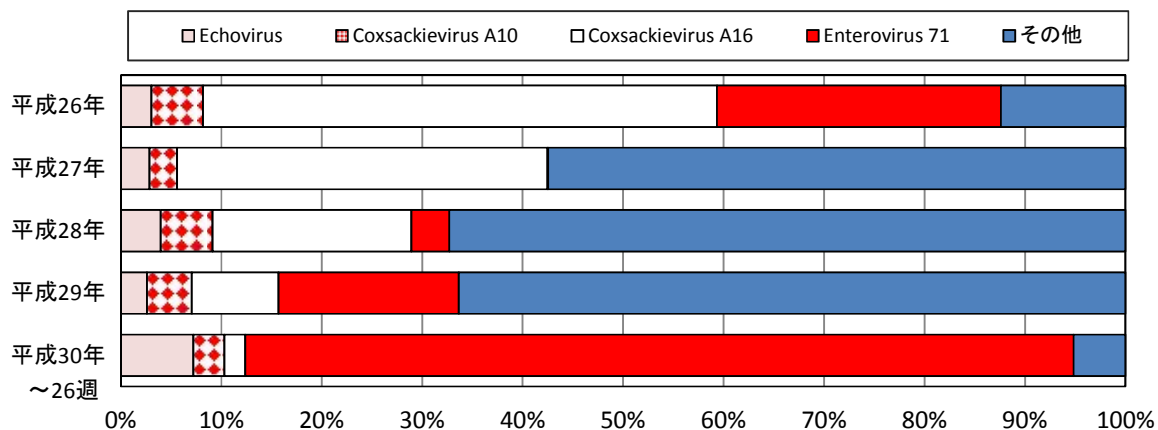


図3 手足口病患者由来ウイルス分離検出割合(全国)



T3201

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第26週

疾病,行政区別報告数

平成30年6月25日～平成30年7月1日

データ入手日:平成30年7月4日

	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	-	-	-	2	5	1	1	-	-	-	-	-	1					
上京	-	-	-	5	10	-	4	-	-	2	-	-	-					
左京	2	-	-	7	85	-	9	-	3	-	-	-	1					
中京	-	-	-	3	5	1	5	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	4	-	1	8	-	-	-	-	1	-							
山科	-	1	1	6	6	1	3	2	3	-	-	-	1					
下京	-	-	-	-	3	-	1	-	-	1	-							
南	-	5	-	6	14	-	2	-	3	1	-							
右京	-	-	7	19	42	-	15	-	3	12	-	-	2					
伏見	-	1	2	10	61	4	14	1	6	11	-	-	1					
西京	-	-	5	6	49	-	3	-	3	5	-	-	-					
京都市計	2	11	15	65	288	7	57	3	22	34	-	-	6	-	-	-	-	-

疾病,行政区別定点当たり報告数

	インフルエンザ（※1）	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎（※2）	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（※3）	感染性胃腸炎（※4）
男女合計																		
北	-	-	-	0.50	1.25	0.25	0.25	-	-	-	-	-	1.00					
上京	-	-	-	1.67	3.33	-	1.33	-	-	0.67	-	-	-					
左京	0.29	-	-	1.75	21.25	-	2.25	-	0.75	-	-	-	1.00					
中京	-	-	-	1.00	1.67	0.33	1.67	-	0.33	0.33	-	-	-	-	-	-	-	-
東山	-	2.00	-	0.50	4.00	-	-	-	-	0.50	-							
山科	-	0.20	0.20	1.20	1.20	0.20	0.60	0.40	0.60	-	-	-	1.00					
下京	-	-	-	-	1.50	-	0.50	-	-	0.50	-							
南	-	1.67	-	2.00	4.67	-	0.67	-	1.00	0.33	-							
右京	-	-	1.40	3.80	8.40	-	3.00	-	0.60	2.40	-	-	2.00					
伏見	-	0.14	0.29	1.43	8.71	0.57	2.00	0.14	0.86	1.57	-	-	0.50					
西京	-	-	1.00	1.20	9.80	-	0.60	-	0.60	1.00	-	-	-					
京都市計	0.03	0.26	0.35	1.51	6.70	0.16	1.33	0.07	0.51	0.79	-	-	0.60	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第26週

年齢階級, 疾病別報告数

平成30年6月25日～平成30年7月1日

データ入手日:平成30年7月4日

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	2	-	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	11	3	3	5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		15	-	2	3	4	-	3	1	1	-	-	-	-	-	1						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		65	-	-	4	6	12	9	8	9	6	5	3	2	-	1						
感染性胃腸炎		288	1	31	32	44	34	24	19	8	12	10	8	25	9	31						
水痘		7	-	-	-	-	-	3	-	-	1	1	-	2	-	-						
手足口病		57	1	10	17	13	3	5	5	1	-	1	-	1	-	-						
伝染性紅斑		3	-	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	-	-	-						
突発性発しん		22	1	10	9	-	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		34	-	5	12	10	3	1	1	-	1	1	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		6	-	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2	1	1	1	-	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

年齢階級, 疾病別定点当り報告数

京都市	年齢1	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳～	80歳以上
男女合計	年齢2	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	
	年齢3	総数	～5ヶ月	～11ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10歳～	15歳～	20歳以上						
	年齢4	総数	0歳	1歳～	5歳～	10歳～	15歳～	20歳～	25歳～	30歳～	35歳～	40歳～	45歳～	50歳～	55歳～	60歳～	65歳～	70歳以上				
インフルエンザ (※1)	年齢1	0.03	-	-	0.01	-	-	0.01	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	年齢3	0.26	0.07	0.07	0.12	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱		0.35	-	0.05	0.07	0.09	-	0.07	0.02	0.02	-	-	-	-	-	0.02						
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		1.51	-	-	0.09	0.14	0.28	0.21	0.19	0.21	0.14	0.12	0.07	0.05	-	0.02						
感染性胃腸炎		6.70	0.02	0.72	0.74	1.02	0.79	0.56	0.44	0.19	0.28	0.23	0.19	0.58	0.21	0.72						
水痘		0.16	-	-	-	-	-	0.07	-	-	0.02	0.02	-	0.05	-	-						
手足口病		1.33	0.02	0.23	0.40	0.30	0.07	0.12	0.12	0.02	-	0.02	-	0.02	-	-						
伝染性紅斑		0.07	-	-	-	-	-	-	0.02	-	0.02	0.02	-	-	-	-						
突発性発しん		0.51	0.02	0.23	0.21	-	0.02	0.02	-	-	-	-	-	-	-	-						
ヘルパンギーナ		0.79	-	0.12	0.28	0.23	0.07	0.02	0.02	-	0.02	0.02	-	-	-	-						
流行性耳下腺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-						
急性出血性結膜炎	年齢2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎		0.60	-	-	-	0.10	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0.20	0.10	0.10	0.10	-	
細菌性髄膜炎 (※2)	年齢4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎 (※3)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
感染性胃腸炎 (※4)		-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。

T3203

京都市感染症発生動向調査情報

集計対象:平成30年第26週

週, 疾病別報告数

データ入手日:平成30年7月4日

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	5	2	5	–	–	2
RSウイルス感染症	6	15	9	5	11	11
咽頭結膜熱	24	29	37	20	16	15
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	50	70	72	81	81	65
感染性胃腸炎	348	397	388	337	314	288
水痘	12	16	19	5	15	7
手足口病	6	10	25	28	24	57
伝染性紅斑	2	2	2	–	1	3
突発性発しん	28	19	12	17	23	22
ヘルパンギーナ	4	17	21	27	22	34
流行性耳下腺炎	4	5	6	7	2	–
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	3	2	2	6	4	6
細菌性髄膜炎 (※2)	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎 (※3)	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎 (※4)	–	–	–	–	–	–
合 計	492	584	598	533	513	510

週, 疾病別定点当たり報告数

京都市 男女合計	5週前	4週前	3週前	2週前	1週前	今週
インフルエンザ (※1)	0.07	0.03	0.07	–	–	0.03
RSウイルス感染症	0.14	0.35	0.21	0.12	0.26	0.26
咽頭結膜熱	0.56	0.67	0.86	0.47	0.37	0.35
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	1.16	1.63	1.67	1.88	1.88	1.51
感染性胃腸炎	8.09	9.23	9.02	7.84	7.30	6.70
水痘	0.28	0.37	0.44	0.12	0.35	0.16
手足口病	0.14	0.23	0.58	0.65	0.56	1.33
伝染性紅斑	0.05	0.05	0.05	–	0.02	0.07
突発性発しん	0.65	0.44	0.28	0.40	0.53	0.51
ヘルパンギーナ	0.09	0.40	0.49	0.63	0.51	0.79
流行性耳下腺炎	0.09	0.12	0.14	0.16	0.05	–
急性出血性結膜炎	–	–	–	–	–	–
流行性角結膜炎	0.30	0.20	0.20	0.60	0.40	0.60
細菌性髄膜炎 (※2)	–	–	–	–	–	–
無菌性髄膜炎	–	–	–	–	–	–
マイコプラズマ肺炎	–	–	–	–	–	–
クラミジア肺炎 (※3)	–	–	–	–	–	–
感染性胃腸炎 (※4)	–	–	–	–	–	–
合 計	11.63	13.72	14.02	12.86	12.24	12.30

※1 インフルエンザは、鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症は除くが、新型インフルエンザのうち、A/H1N1については含む。

※2 細菌性髄膜炎は髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。

※3 クラミジア肺炎はオウム病を除く。

※4 感染性胃腸炎は病原体がロタウイルスであるものに限る。